国立国語研究所学術情報リポジトリ

『口語法分布図』と『方言文法全国地図』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 雅子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002968

『口語法分布図』と『方言文法全国地図』

吉田雅子（国立国語研究所・研究開発部門）

最初におことわり申し上げるが，紙幅の都合上，本稿では研究発表内容の要旨・概略・一部の地図を挙げるにとどまる．2006H18年12月16日の公開研究発表会当日には，ポスターとスライドを用いて別資料も示しつつ，口頭でより詳細に説明を加える．

1．本研究の目的と構想

発表者は，『口語法分布図』（以下「〈口語法〉」）と『方言文法全国地図』（以下「GAJ」）のデータを比較しながら，言語地理学的分析，通時分析等をおこなっていくことを考えている．〈口語法〉と GAJ には，以下に述べるような相違点・共通点・問題点があることをふまえ，それらの要素の影響を十分に考慮しながら，分析・検討していきたい．

相違点：作成時代．制作目的．調査方法．製図方法．など

共通点：１機関によって１時期に一様な全国調査を実施．そのことによるデータ量の多さ．など

問題点：〈口語法〉と『口語法調査報告書』（以下〈報告書〉）の差異．上記相違点により単純比較できない困難さ．など

今回は，〈口語法〉と GAJ を使う研究の構想とその基礎作業を紹介し，分析の一例を提示する．なお今回の分析には，1986S61 年に国書刊行会より復刊された〈口語法〉と〈報告書〉を使用した．

2．研究計画と作業手順

(1)〈口語法〉と GAJ の対応関係を把握する．（→「３．〈口語法〉と GAJ の対応」）

(2)〈口語法〉と GAJ を比較しやすくするため，それぞれ略図を作成する．地図化項目と地図化の方針を決定する．

(3)作成した２つの略図を比較分析検討する．（→「４．〈口語法〉と GAJ の比較」）

(4)〈報告書〉の内容をも取り入れ反映させた「新口語法分布図」を作成する．「新口語法分布図」は，口語法調査報告書研究グループ(※)が 1996H08 年に作成した，〈報告書〉に対応した白地図である．

(5)作成した〈口語法〉略図，GAJ 略図，新口語法分布図の，３つの図を比較分析検討する．

このような作業により，以下のことが期待される．

・GAJ と，〈口語法〉と，〈報告書〉のデータをふまえた分析ができる．

・分析作業に並行して，〈口語法〉，〈報告書〉のデータベース化が進められる．

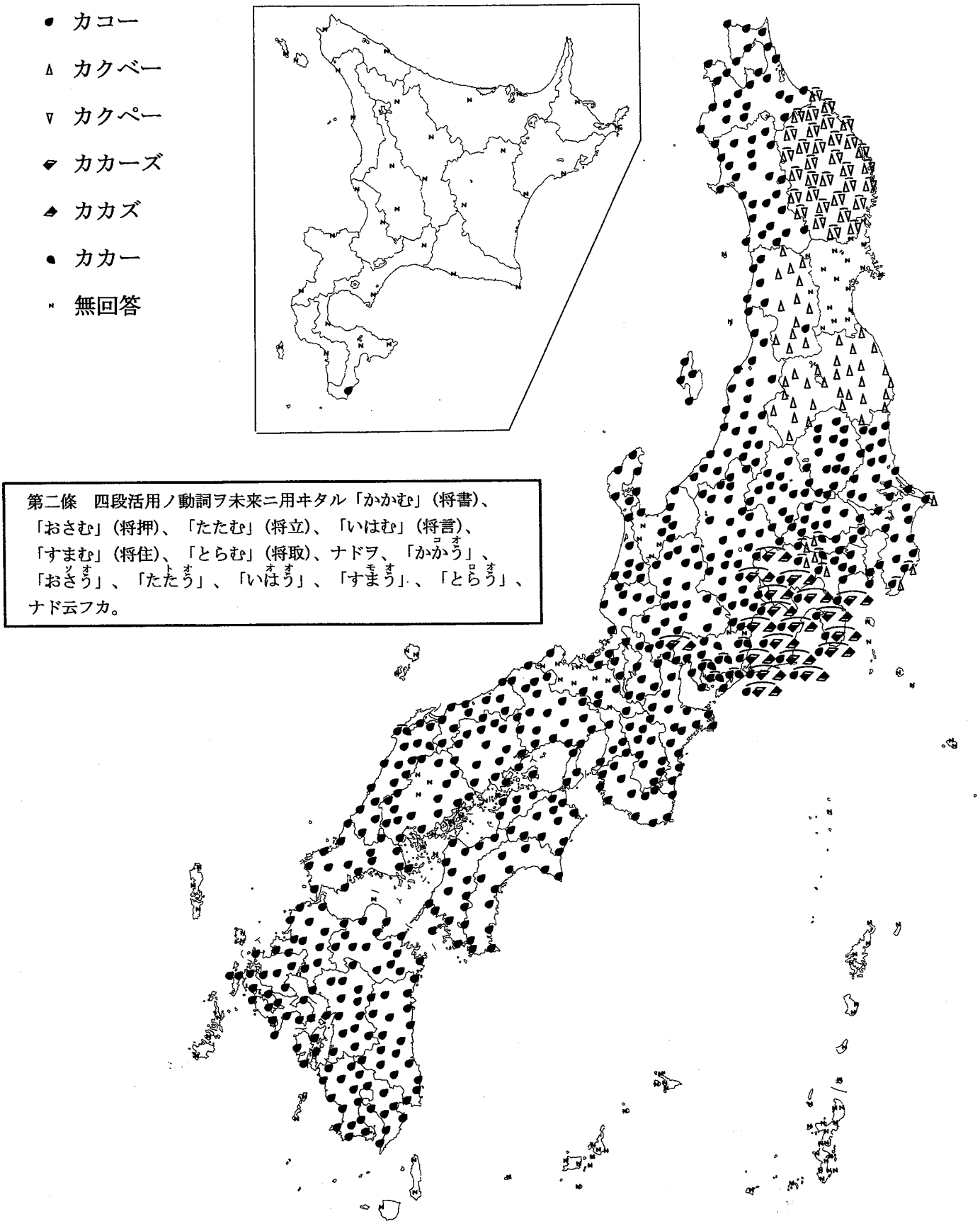
・〈口語法〉，〈報告書〉のデータベースは，方言情報として GAJ，LAJ(日本言語地図)のそれと合わせて使うことができる．また，GIS による多重分析のためのデータが蓄積される．

3．〈口語法〉と GAJ の対応

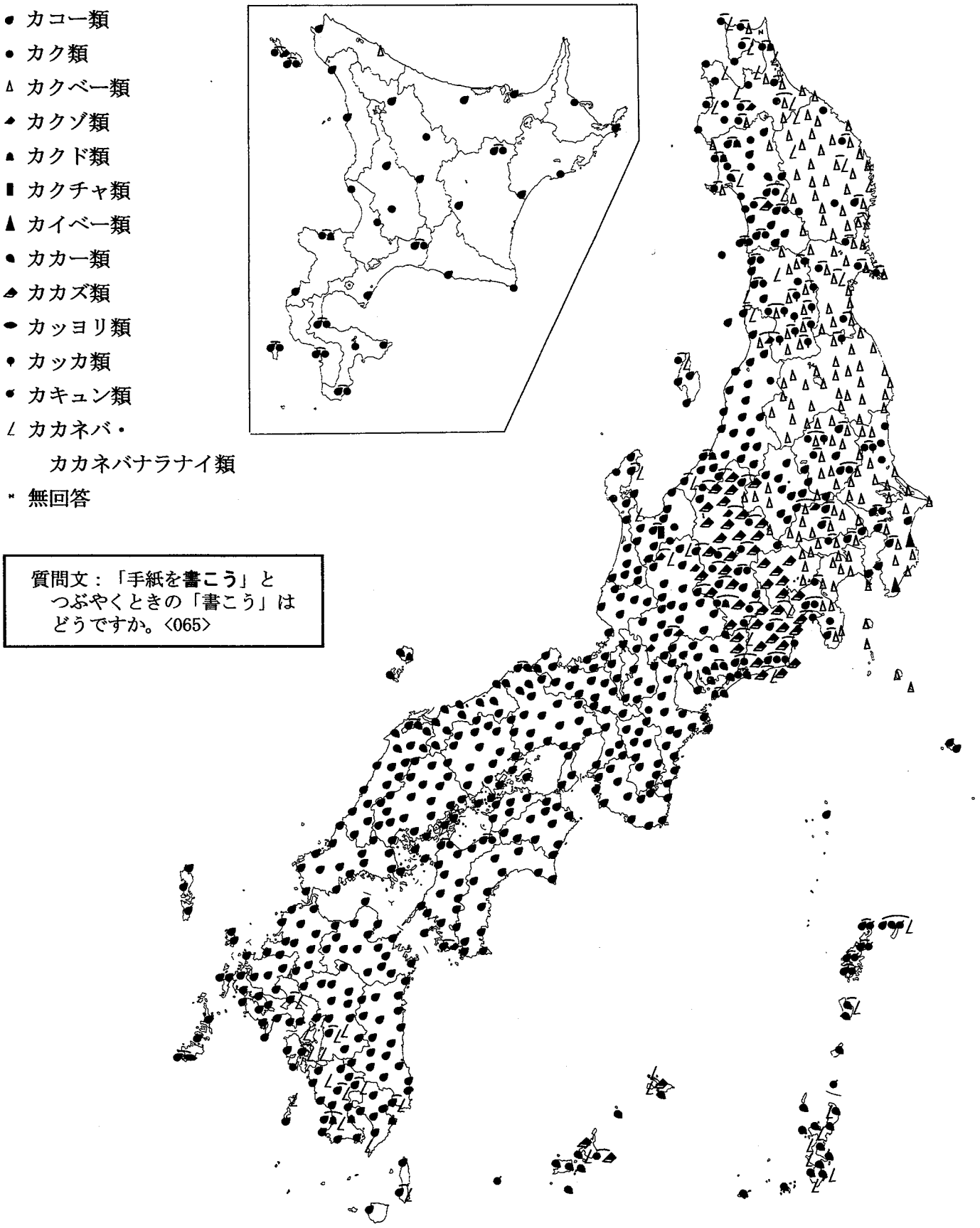
後掲の【表】に，〈口語法〉に対応する GAJ の地図・項目を挙げて示した．以下，本稿では〈口語法〉や〈報告書〉の内容を記載するにあたり，適宜旧字体を新字体に改めている箇所もある．表の１列目の「図」は〈口語法〉の番号．３列目の「条」は〈口語法〉の図に対応する〈報告書〉の調査項目条．「レ」は「〈口語法〉と GAJ の対応レベル」のことで，●，△，×の３段階で表した．●は一致する項目，△は調査語彙などに違いはあっても文法面では一致する項目，×は対応する項目がないことを表す．

4．〈口語法〉と GAJ の比較－〈口語法〉1 図と GAJ109 図「書こう(意志形)」－

後掲の【地図 1】，【地図 2】を見ながら，それぞれの地図化の方針，記号化の説明，分布の傾向を説明する．また，２図の比較から読み取れることを分析する．そして，作図や比較方法の諸問題についても述べる（本稿内では割愛）．



【地図1】〈口語法〉「1〔未来ノ云ヒ方〕「書かう」「書くべい」「書かず」(四段活用ノ語)等ノ分布図」GAJ式略図



【地図2】GAJ109図「書こう(意志形)」略図

5．展望と課題

〈口語法〉や〈報告書〉にはいくつかの先行研究があり，特に前述した口語法調査報告書研究グループによるデータベースや新口語法分布図や調査研究をいかしながら，GAJ と合わせて分析していけば，そのデータ量の多さからも，多くの発見があると思われる．比較観点レベルとしては，全国図比較と，県単位での詳細比較の双方を実施する計画である．作業を進めながら，〈口語法〉と GAJ のデータの質の違いをとらえ，今後頻繁に実施されるであろう GIS を用いてのデータベース化・分析の際の研究方法論的な観点も得たいと考えている．

課題の多くは，1 で述べた相違点・問題点に起因することが多いだろうが，同じく 1 で挙げた〈口語法〉と GAJ の共通点は比較分析の大きな好条件である．情報の宝庫といえる〈口語法〉と GAJ による研究を今後も継続する所存である．

※注，関連して参考文献を 1 点だけ挙げる．

口語法調査報告書研究グループ：「明治期国語調査委員会の方言研究資料に関する研究」（文部省科学研究費補助金一般研究 B，平成 8～10 年度，研究代表者徳川宗賢）の研究にあたったグループ．発表者もメンバーであった．次には，グループの成果の一部が発表されている．口語法研究グループ 2000「口語法調査報告書研究グループ報告」『20 世紀フィールド言語学の軌跡“徳川宗賢先生追悼論文集”』変異理論研究会

【表】〈口語法〉と GAJ の対応（紙幅の都合上 18 図以降は割愛．ポスターに全掲する．）

図	〈口語法〉題目	条	対応する GAJ[集-地図番号〈質問番号〉地図題目]	レ
1	「書かう」「書くべい」「書かず」（四段活用ノ語）等ノ分布図	2	3-109〈065〉書こう（意志形）	●
2	「受けよう」「受けう」「受けべい」「受けず」（下二段活用ノ語）等ノ分布図	4	3-107〈063〉開けよう（意志形）	△
3	「来う」「来よう」「来べい」「来うず」等ノ分布図	6	3-110〈064〉来よう（意志形）	●
4	「為よう」「為う」「為べい」「為ず」等ノ分布図	7	3-111〈062〉しよう（意志形）	●
5	「ぬ」「ない」等ノ分布図	31	否定形の 13 図．2-72〈001〉起きない（否定形）～2-84〈004〉しない（否定形）	△
6	「来ぬ」「来ない」等ノ分布図	32	2-83〈003〉来ない（否定形）	●
7	「為ぬ」「為ない」等ノ分布図	33	2-84〈004〉しない（否定形）	●
8	「なんだ」「なかッた」等ノ分布図	31	4-151〈198〉行かなかった	△
9	「いで」「ないで」等ノ分布図	31	4-155〈196〉行かないで	△
10	「せねば」「しなければ」等ノ分布図	33	4-153〈185〉行かなければ/5-206〈154〉行かなければならない	△
11	「来まい」「来まい」「来まい」等ノ分布図	34	5-234〈159〉行くまい	△
12	「為まい」「為まい」「為まい」等ノ分布図	34	5-234〈159〉行くまい	△
13	「見よ」「見い」「見ろ」（上一段活用ノ語ノ命令）等ノ分布図	5	2-86〈035〉見ろ（命令形）	●
14	「受けよ」「受けい」「受けろ」（下二段活用ノ語ノ命令）等ノ分布図	4	2-87〈034〉開けろ（命令形）	△
15	「来い」「来よ」等ノ分布図	6	2-90〈036〉来い（命令形）	●
16	「為よ」「為い」「為ろ」等ノ分布図	7	2-91〈033〉しろ（命令形）	●
17	「れよ．られよ」「れろ．られろ」（受身ノ助動詞ノ命令）等ノ分布図	25	（参考になるのは受身形の 3 図．3-115〈025〉書かれる，3-116〈072〉来られると，3-117〈073〉される）	×